別添

１　令和２年中の県内の火災発生状況

令和２年中（令和２年１月～12 月）の県内の火災発生状況は、下表のとおりです。

○　全出火件数は 513 件で、前年より 15 件減少しました。

○　建物火災は 360 件で、前年より６件増加しました。建物火災のうち、住宅火災は 177 件で、前年より 29 件減少しました。

○　火災による死者は 31 人で、前年より 12 人減少しました。火災による死者のうち、高齢者の死者は 18 人で、前年より７人減少しました。

令和２年中の県内における火災発生状況

区分/年別	令和２年			令和元年/平成31年	過去10年平均※5
		令和元年/平成31年との比較	過去10年平均との比較		
全出火件数（件）	**513**	**-15 (-2.8 %)**	**-83 (-13.9 %)**	**528**	**596**
建物火災	360	6 (1.7 %)	-48 (-11.8 %)	354	408
住宅火災	177	-29 (-14.1 %)	-62 (-25.9 %)	206	239
林野火災	12	-17 (-58.6 %)	-6 (-33.3 %)	29	18
車両火災	54	-12 (-18.2 %)	-17 (-23.9 %)	66	71
船舶火災	0	-3 (皆減)	-1 (皆減)	3	1
航空機火災	0	0 (－)	0 (－)	0	0
その他火災※1	87	11 (14.5 %)	-11 (-11.2 %)	76	98
全死者数（人）	**31**	**-12 (-27.9 %)**	**-11 (-26.2 %)**	**43**	**42**
放火自殺等を除く※2	20	-14 (-41.2 %)	-12 (-37.5 %)	34	32
建物火災	19	-12 (-38.7 %)	-9 (-32.1 %)	31	28
住宅火災	19	-11 (-36.7 %)	-8 (-29.6 %)	30	27
放火自殺等	11	2 (22.2 %)	1 (10.0 %)	9	10
高齢者の死者数（人）※3	**18**	**-7 (-28.0 %)**	**-5 (-21.7 %)**	**25**	**23**
放火自殺等を除く	13	-11 (-45.8 %)	-8 (-38.1 %)	24	21
建物火災	12	-9 (-42.9 %)	-7 (-36.8 %)	21	19
住宅火災	12	-9 (-42.9 %)	-6 (-33.3 %)	21	18
放火自殺等	5	4 (400.0 %)	3 (150.0 %)	1	2
負傷者数（人）	**108**	**1 (0.9 %)**	**-16 (-12.9 %)**	**107**	**124**
損害額（百万円）	**1,480**	**21 (1.4 %)**	**-466 (-24.0 %)**	**1,459**	**1,946**
焼損棟数（棟）	**565**	**-53 (-8.6 %)**	**-137 (-19.5 %)**	**618**	**702**
焼損床面積（㎡）	**24,784**	**-4,931 (-16.6 %)**	**-13,431 (-35.1 %)**	**29,715**	**38,215**
出火率※4	**2.31**	**-0.04 (－)**	**-0.25 (－)**	**2.35**	**2.56**

※1 その他火災は庭や田畑、河川敷などで出火した火災
※2 放火自殺等：放火自殺者、放火自殺の巻添者及び放火殺人の犠牲者
※3 高齢者：65歳以上の人
※4 出火率：人口１万人当たりの出火件数
※5 過去10年平均は平成22年から令和元年/平成31年までの平均

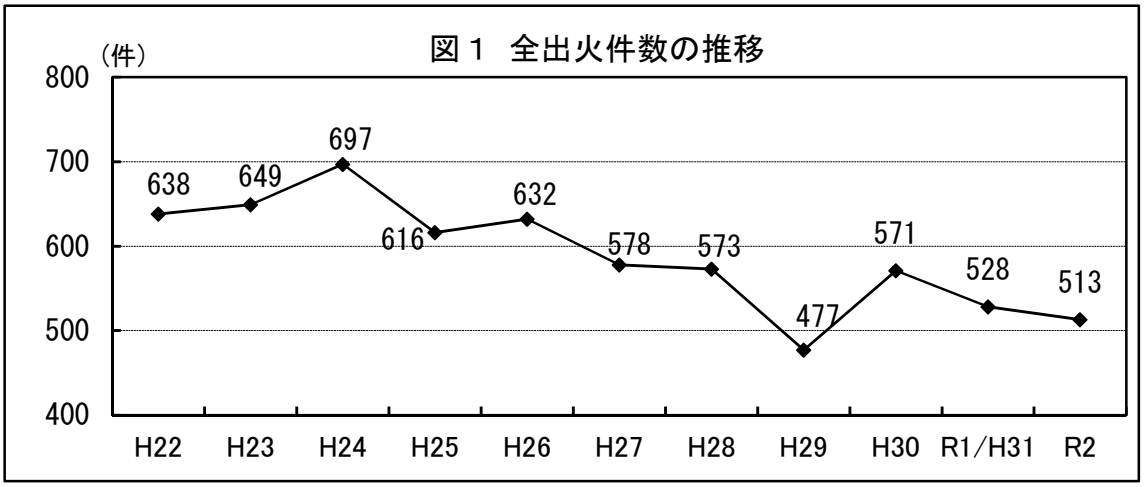
２　令和２年の火災の特徴

(1)　出火件数

ア　全出火件数（図１）

全出火件数は 513 件で、前年よりも 15 件減少しています。

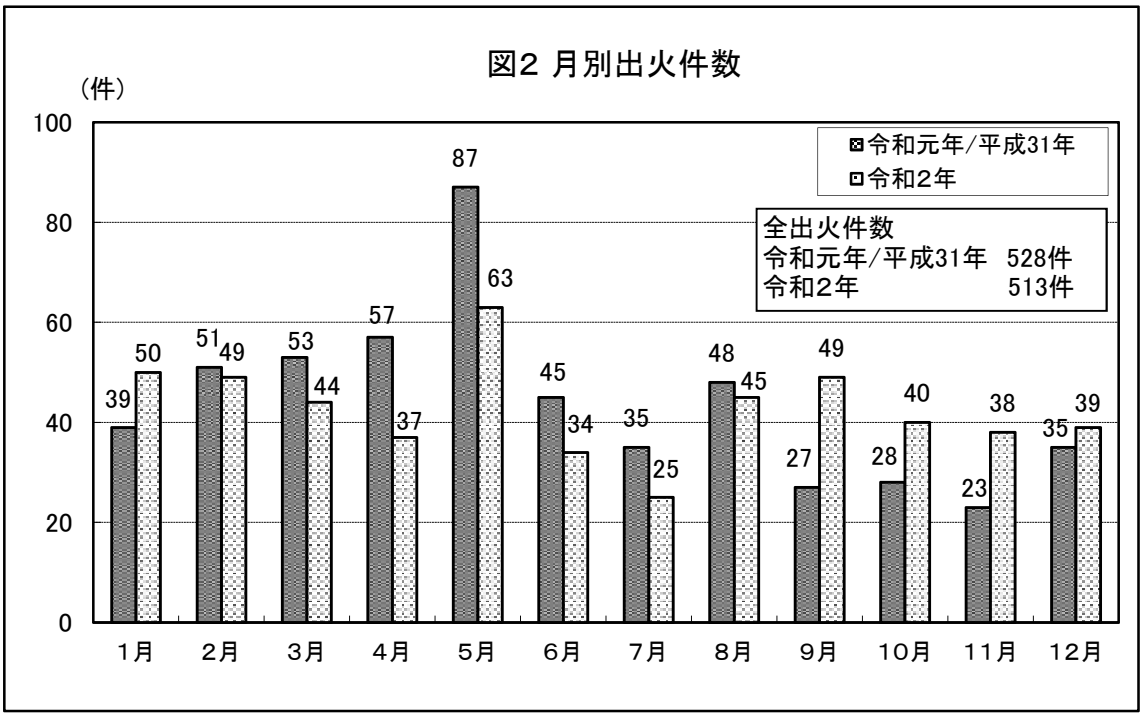
図１　全出火件数の推移



イ　月別出火件数（図２）

前年と同様に５月に火災が多く発生しました。

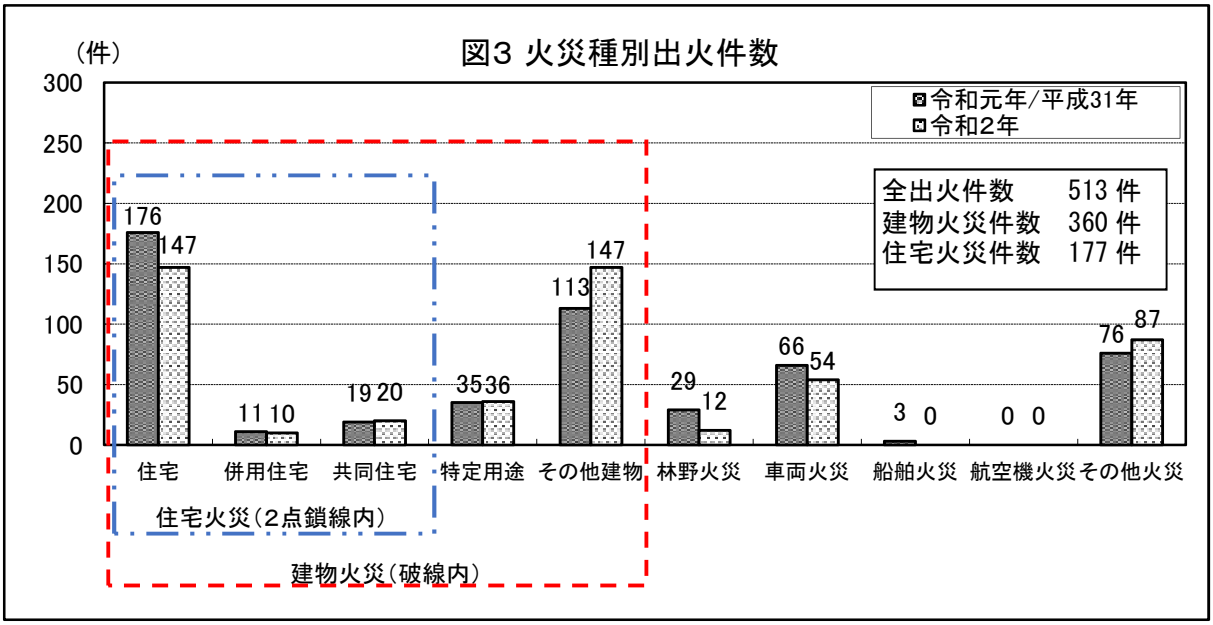
図2 月別出火件数

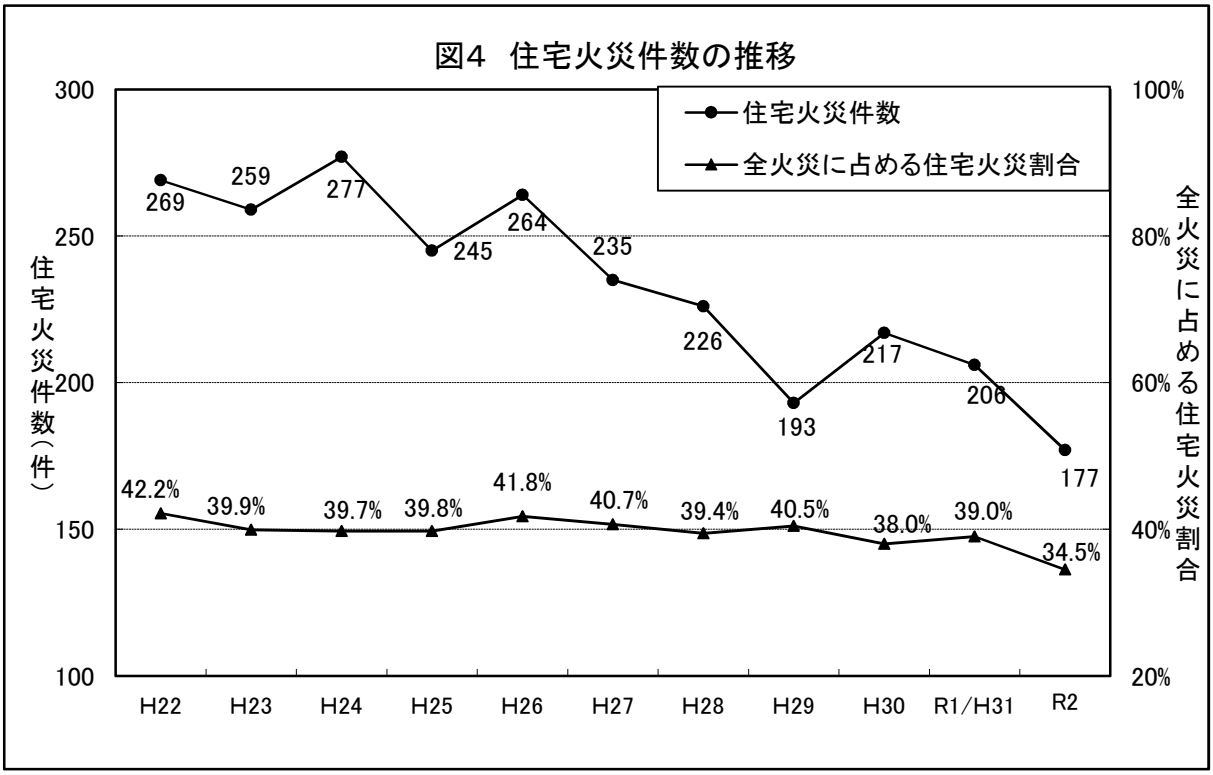


ウ　火災種別出火件数（図３、図４）

火災種別出火件数では、建物火災が最も多く 360 件でした。建物火災が全火災に占める割合は 70.2%となっています。

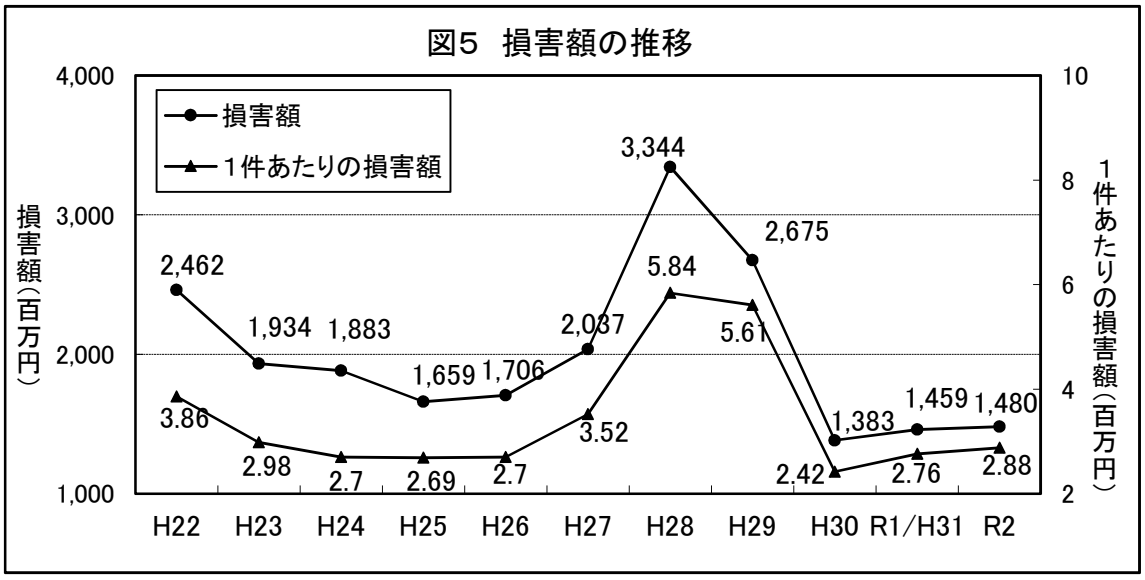
建物火災のうち、住宅火災は 177 件となり、前年に比べ 29 件減少しました。住宅火災が全火災に占める割合は 34.5%、また、建物火災に占める割合は 49.2%となっています。





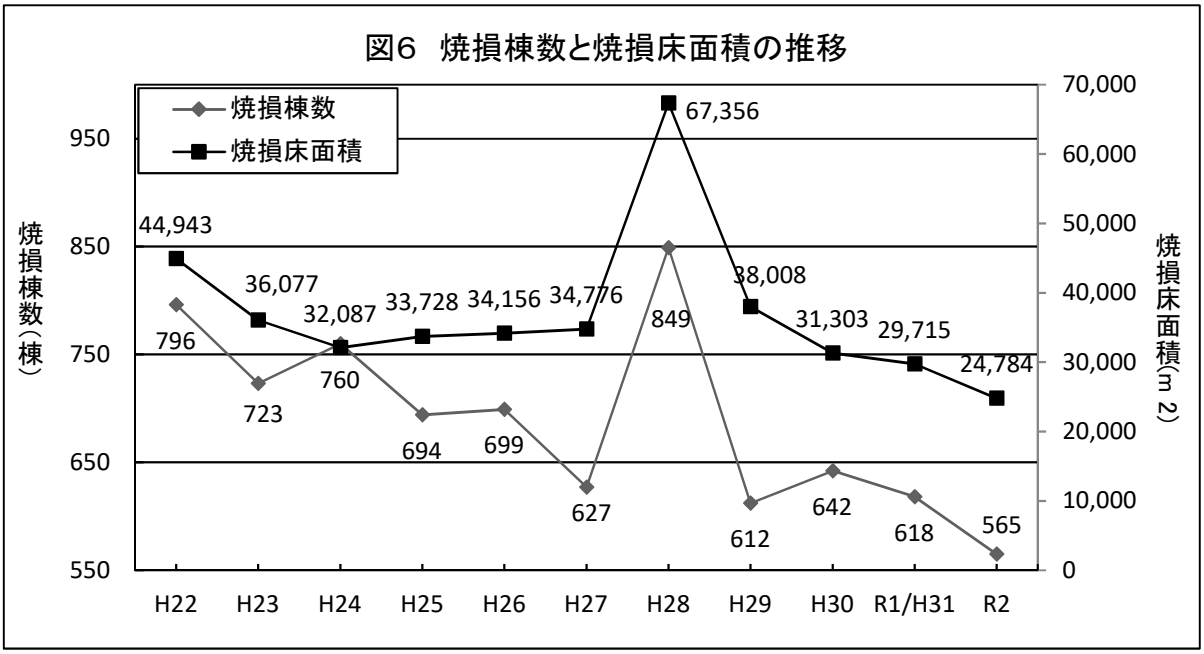
(2)　損害額（図５）

火災による損害額は、14 億 8,027 万円で、前年より 2,169 万円増加しました。また、火災１件当たりの損害額は 288 万円で、前年より 12 万円増加しました。



(3)　焼損棟数と焼損床面積（図６）

令和２年中の焼損棟数は 565 棟となり、前年より 53 棟減少しました。また、焼損床面積は 24,784 ㎡となり、前年より 4,931 ㎡減少しました。過去 10 年平均と比較すると、焼損棟数は 137 棟減少し、焼損床面積も同様に 13,431 ㎡減少しました。

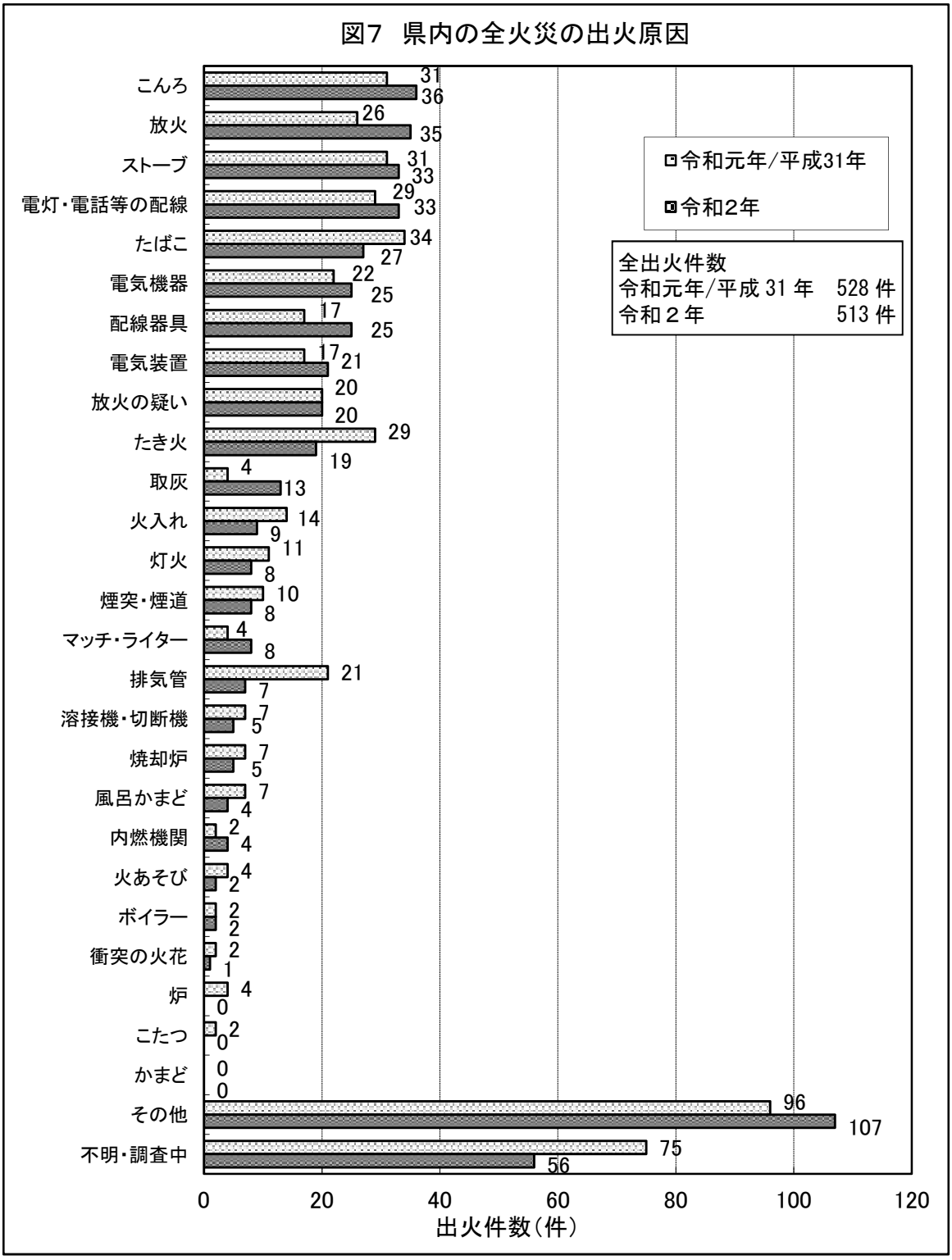


(4) 出火原因

ア　県内の全火災の出火原因（図７）

全火災 513 件の出火原因は、「こんろ」が 36 件で最も多く、次いで「放火」が 35 件、「ストーブ」及び「電灯・電話等の配線」が 33 件となっています。また、「放火」は「放火の疑い」と合わせると 55 件となり、全体の 10.7%を占めています。

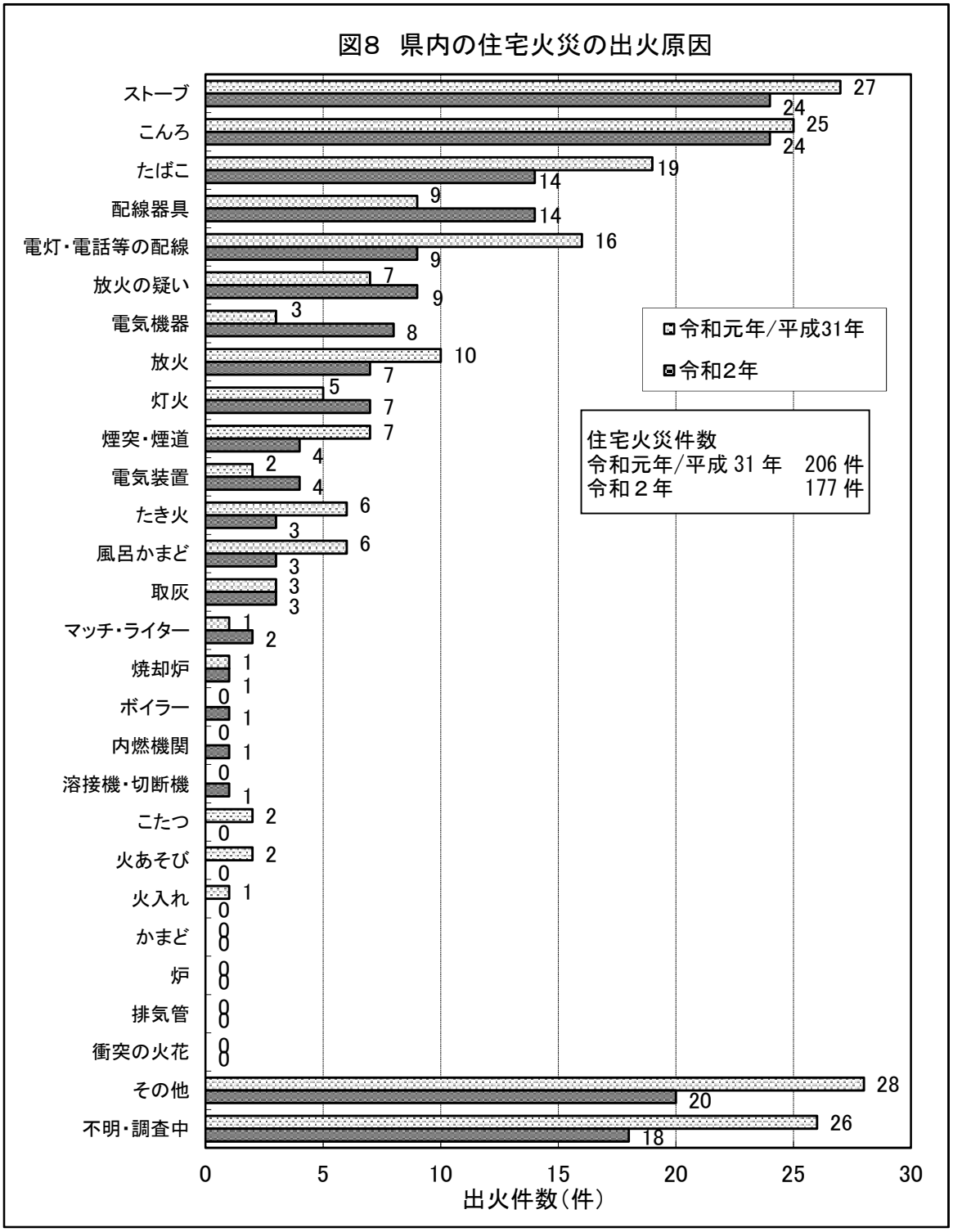
図7　県内の全火災の出火原因



イ　県内の住宅火災の出火原因（図８）

住宅火災 177 件の出火原因は、「ストーブ」及び「こんろ」が 24 件で最も多く、次いで「たばこ」及び「配線器具」が 14 件となっています。

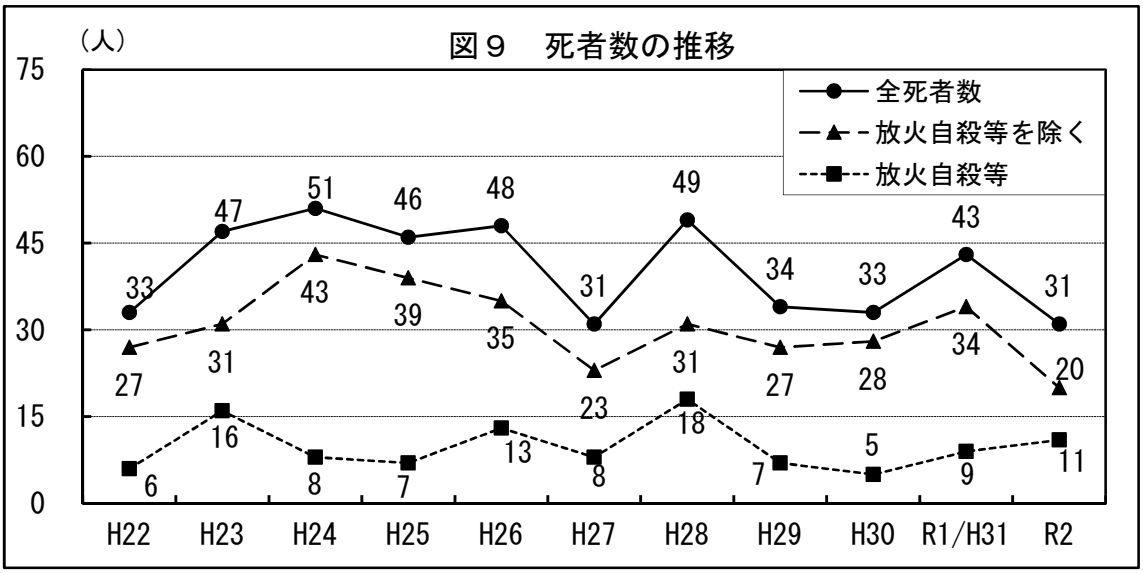
例年、住宅火災の出火原因の上位を占める「ストーブ」、「こんろ」及び「たばこ」を合わせた件数は 62 件で、住宅火災件数の 35.0%を占めています。



(5) 死者数

ア　死者数の推移（図９）

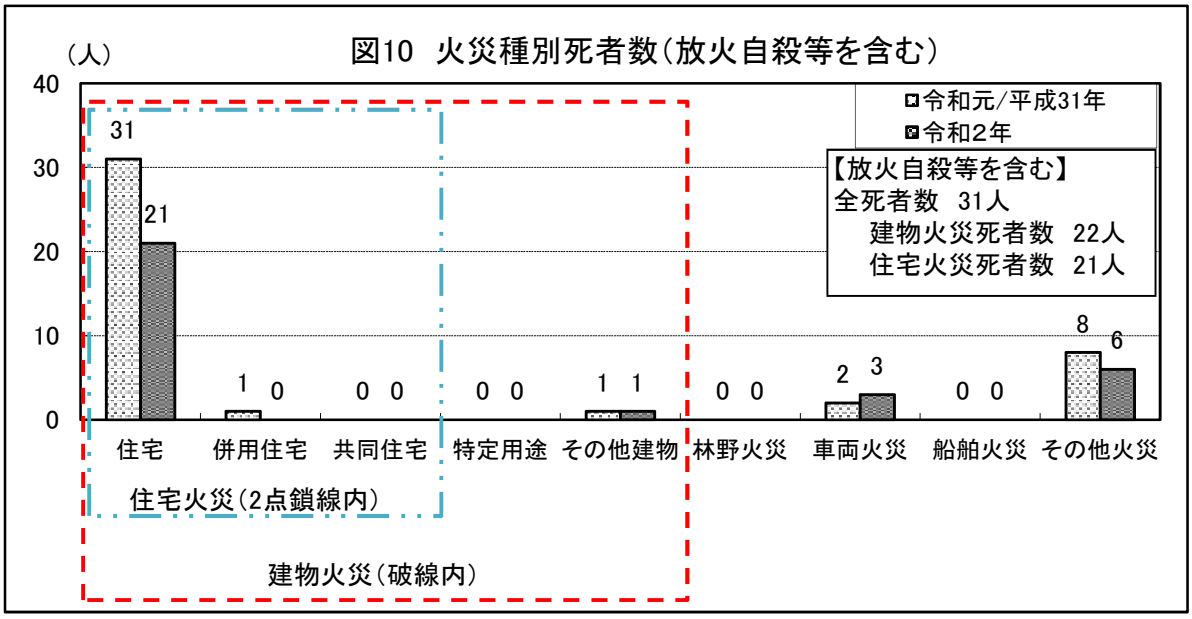
令和２年中の火災による全死者数は 31 人で、前年より 12 人減少しました。このうち、放火自殺等を除く死者数が 20 人で、前年に比べ 14 人減少しました。放火自殺等による死者数は 11 人で、前年に比べ 2 人増加しました。



イ　火災種別者別死者数（図 10）

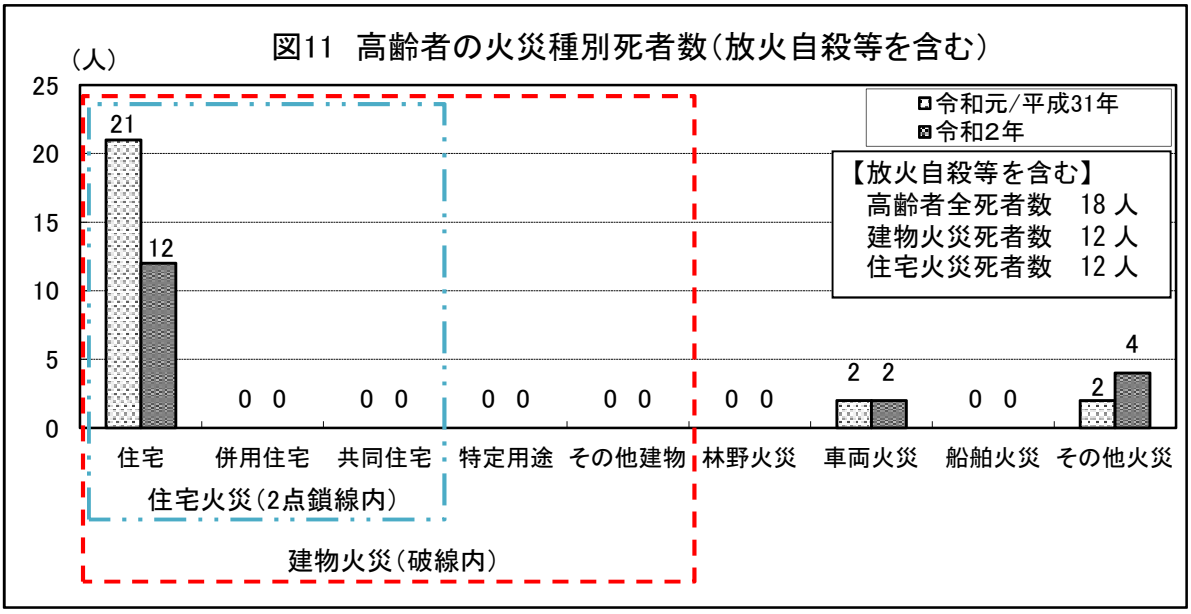
令和２年中は、建物火災による死者が 22 人で、前年に比べ 11 人減少しました。また、住宅火災による死者は 21 人で、前年に比べ 11 人減少しました。

なお、建物火災の死者に占める住宅火災の死者の割合は 95.5%で、出火件数の割合 49.2%と比較して非常に高くなっています。



ウ　高齢者の火災種別死者数（図 11）

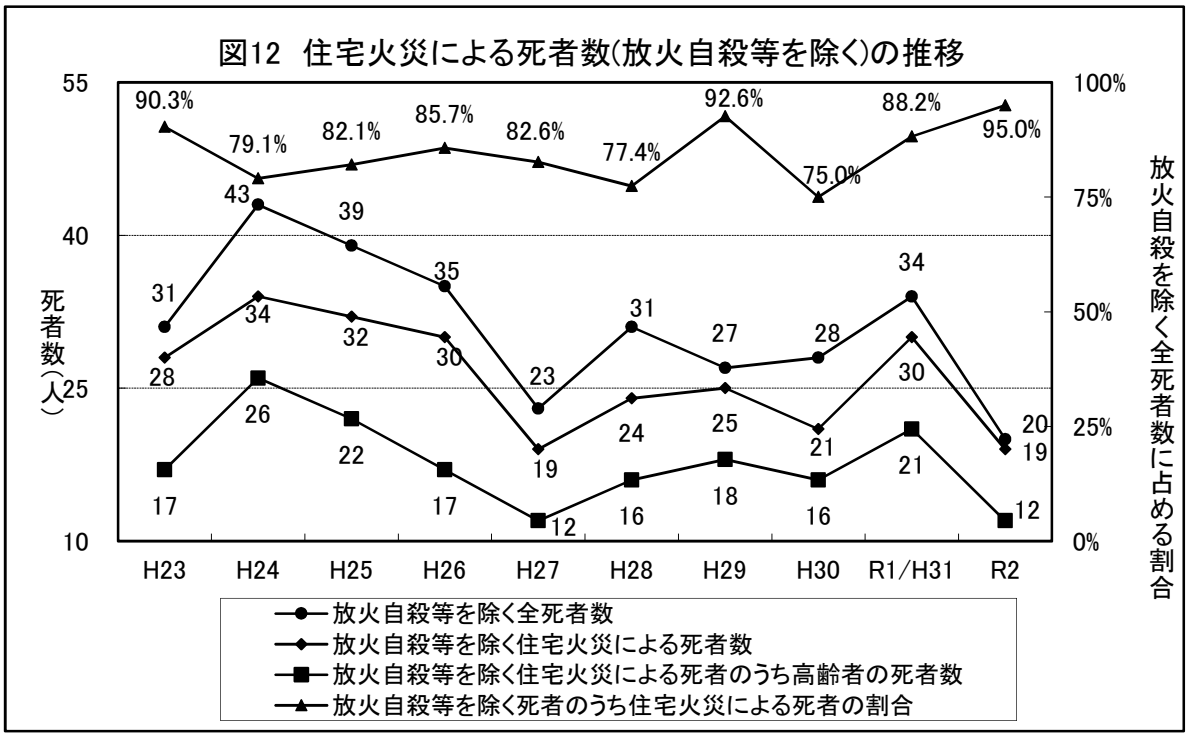
65歳以上の高齢者の死者数は18人で、前年に比べ７人減少しました。そのうち建物火災による死者数が 12 人で、全高齢者死者数に占める割合は 66.7%となっています。



エ　住宅火災の死者数（放火自殺等は除く）（図 12）

令和２年中の放火自殺等を除く死者 20 人のうち、住宅火災による死者は 19 人で、95.0%を占めています。

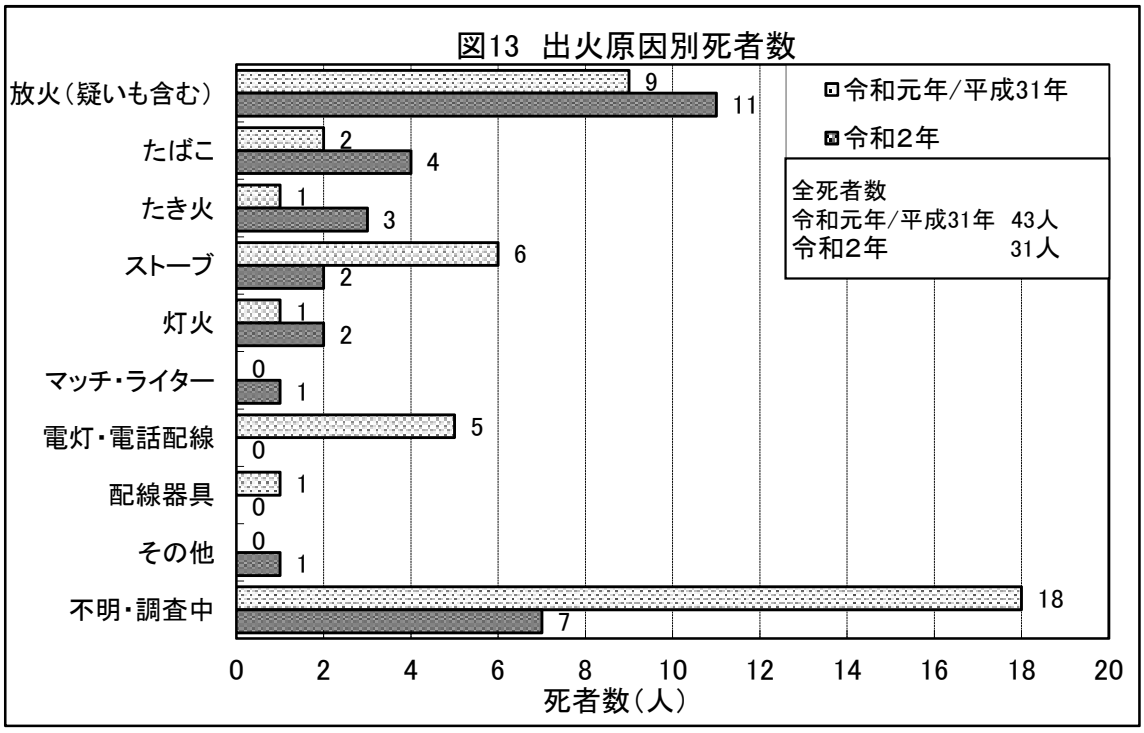
また、住宅火災による死者 19 人のうち、65 歳以上の高齢者は 12 人で、63.2%を占めています。

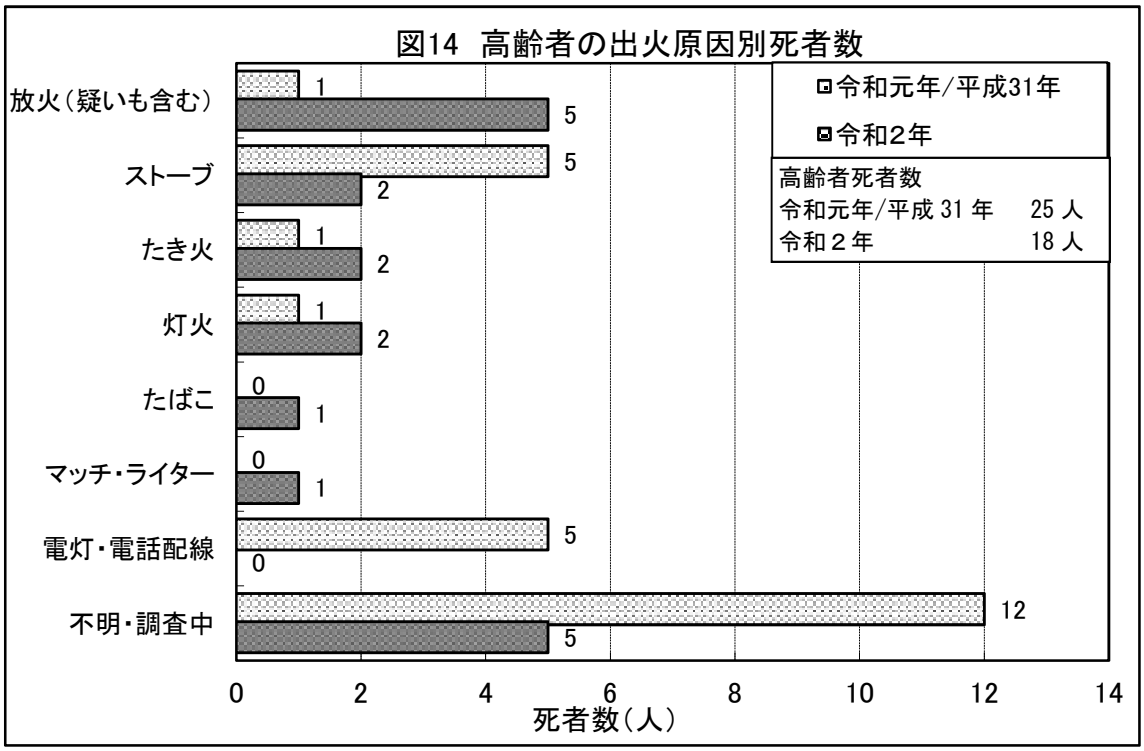


オ　出火原因別死者数（図 13、図 14）

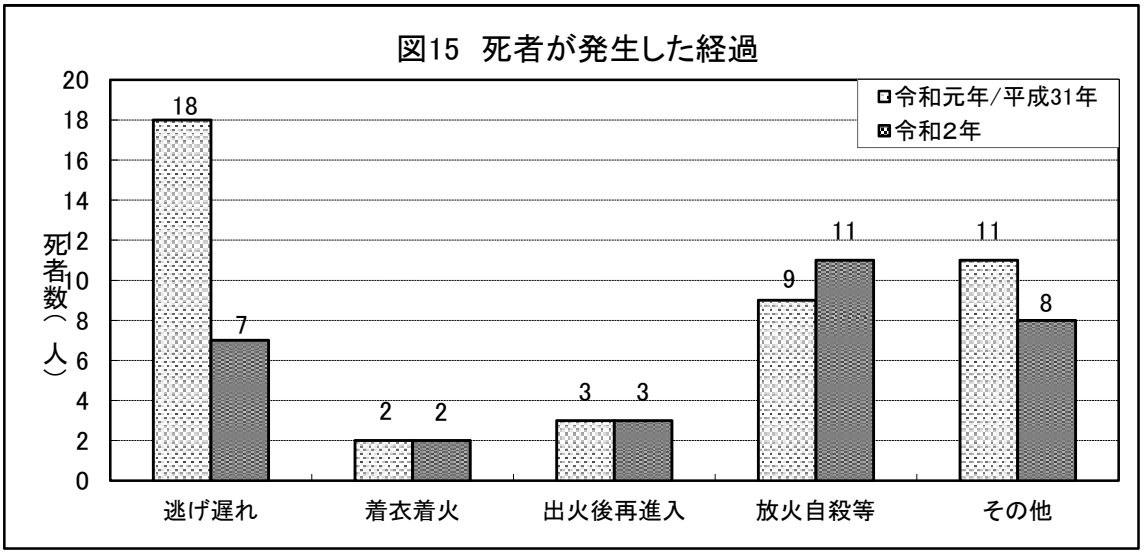
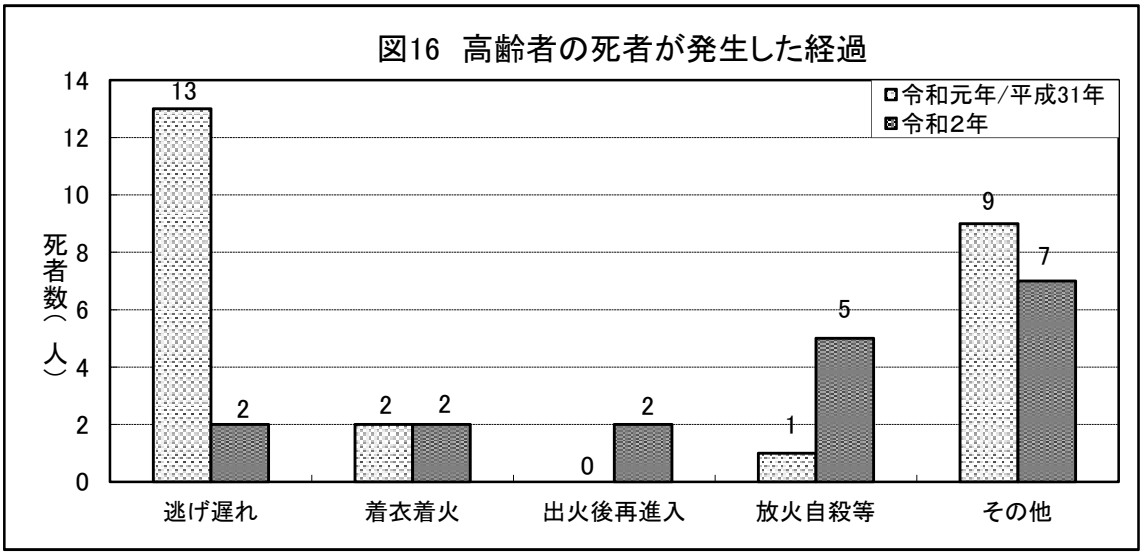
令和２年中の出火原因別死者数は、「放火（放火の疑いも含む）」が 11 人で最も多くなっています。

同様に、65 歳以上の高齢者でも、「放火（放火の疑いも含む）」が５人で最も多くなっています。





カ　死者の発生した経過（図 15、図 16）

令和２年中の死者の発生した経過は、「放火自殺等」が 11 人で最も多く、次いで「逃げ遅れ」が７人でした。放火自殺等を除く死者数 20 人のうち「逃げ遅れ」は 35.0％を占めています。

同様に、65 歳以上の高齢者でも、「放火自殺等」が５人で最も多くなっています。